

人権意識調査の報告会

田川人権啓発センター事務局長の堀内忠さんを講師に迎え、町内で行われた人権意識に関するアンケートの結果をもとに、人権について考えます。どうぞお気軽にご参加ください。

日時 **12月5日** 19時～
会場 同和对策研修センター



「福岡県人権研修所副理事長も務める堀内忠さん。人権啓発に取り組んできた長年の経験に基づいて、今回、みなさんにわかりやすく解説します。【入場無料】」

「アライゼーション」障害者と健常者はお互いが特別に区別されることがなく、社会生活を共にできることが当然であり、それが望ましい姿であるという考え方を、それに向けた運動や施策も含まれる。

人権ピックアップ

石川一雄さん夫妻が来町
45年前に埼玉県で女子高生が殺された狭山事件で、無実を訴え続けている石川一雄さん夫妻との交流集会在11月22日に地域交流センターで開かれました。石川さんは「二度とわたしの様な人を出してはいけない。部落差別を許してはならない」と会場に語りかけました。



↑380人と交流した石川一雄さんと早智子さん

子どもの人権受け止めて
子どもの人権をテーマにした人権パネル展が11月4日から28日まで役場ロビーで開かれました。世界の子どもたちが犠牲になっている戦争や飢餓、国内でのいじめや虐待の現状がパネルで示され、著名人から子どもたちへの心あたたまるメッセージも添えられました。



↑統計などのデータも詳しく示されたパネル展

人権擁護委員が啓発授業
11月19日に人権擁護委員による人権啓発授業が弁城小で開かれました。手話を交えた「手のひらを太陽に」の合唱や、紙芝居で命や人権について考えた後、人気キャラクターの2人が教室に登場。2年生児童から人権に関するたくさんの元気な質問が飛び交っていました。



↑人KENまもる君とあゆみちゃんの登場に大興奮

あたりまえなこと

人は生まれながらにして平等です。

「あたりまえ」だと、言われるかもしれませんが、しかし、普段はあまり意識していませんが

「あたりまえ」だからこそ、大切にしなければならぬと思うのです。「あたりまえ」なもの、なくてはならない、かけがえのないもの。そんな、当然あるべき権利が踏みこじられてしまう

「差別」という悲しい存在、また、それが存在するという現実。人権を守るという「あたりまえ」のことができていないのです。

現代社会には同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者特定の病氣などに関する人権問題が依然として存在しています。

このような状況の中、わたしたちはいつ差別と関わり加害者や被害者の立場になるかわかりません。

無関心をよそおい、差別から目を背けるのではなく、人権の視点で物事の本質を見極め

「それはおかしい」と言える勇気を持つことが大切です。

自分自身の責任ではないこと

本人の努力ではどうすることもできないこと

不当な扱いを受けることほど、悲しいことはありません。

人の痛みがわかる心と真実を見つめることのできる目を

この町の子どもたちにとって欲しいと願っています。

一日も早く社会から差別がなくなるよう

福智町は、これからも積極的に取り組んでいきます。

60回目の人権週間

世界共通の基本的人権を守る基準として、1948年(昭和23年)12月10日、国連で「世界人権宣言」が採択され、わが国では、その翌年から12月10日の人権デーを最終日とする1週間(12月4日から10日まで)が「人権週間」と定められました。

今年、60回目の節目となる人権週間では全国規模で活動が展開され、福智町でも住民一人ひとりが人権を尊重し「人権週間」が、いつも人権のものさしで物事を考える「人権習慣」のきっかけとなるよう、次の強調事項を踏まえて啓発を推進します。

部落差別解消に向けて

部落差別は歴史的過程で形づくられた身分差別に基づくもので、わが国固有の重大な人権問題

題です。今なお結婚をさまたげられたり、就職で不公平に扱われたりするなど、差別事象はいまだに後を絶ちません。一人ひとりがこの問題について、いっそう理解を深め、自らの意識を見つめ直すとともに、自らを啓発していくことが必要です。

男女の立場を対等に

「男は仕事、女は家庭」など、男女の役割を固定的にとらえる意識から生まれる男女差別は、家庭や職場で依然として根深く残っています。女性に対する暴力の解消も重要な課題です。これからの社会を担うためには、女性と男性が対等の立場で協力し、責任も分かち合うことが大切です。福智町では男女共同参画条例(仮称)案策定委員会が7月から回を重ね、協議を進めています。

子どもを一個人として

陰湿で執拗な「いじめ」、体罰による虐待、国内外での児童買春など、子どもの人権をめぐる問題は深刻な状況にあります。子どもも一人の人間として最大限に尊重されなければなりません。大人自身が自覚しなければなりません。

高齢者を敬う心を

我が国における平均寿命の大幅な伸びや少子化を背景に、社会の高齢化は極めて急速に進み、平成27年には4人に1人が高齢者になるといわれています。高齢者が自立した存在として生きがいの持てる生活ができるよう、接していくことが大切です。

障がいのある人との平等

障がいのある人に対する理解や配慮はまだまだ不十分で、ノーマライゼーションの理念は完全に実現していません。すべての人が対等に生活し、活動できる社会が求められています。

一年で、一番大切な一週間にしたい。

第60回 **人権週間** 12月4日(木)～10日(水)